

第2版

画像認識ユニット

NVP-Ax230SDK
SVP-Ax330SDK

Software Development Kit

Fine Vision Processor

シェルコマンド リファレンス

maxell

マクセルシステムテック株式会社

はじめに

このたびは、VP-Axシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本マニュアルはVP-Axシリーズのシェルコマンドについて記載しております。



ご注意

- システムの構築やプログラム作成などの操作を行う前に、本マニュアルの記載内容をよく読み、書かれている 指示や注意を十分理解してください。誤った操作によりシステムの故障が発生することがあります。
- 本マニュアルの記載内容について理解できない内容、疑問点または不明点がございましたら、弊社営業窓口までお知らせください。また、弊社ホームページのお問い合わせのページからも受け付けていますのでご利用ください。
<http://www.systemtech.maxell.co.jp/solution/vp/>
- お客様の誤った操作に起因する、事故発生や損害につきましては、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。
- 弊社提供のハードウェアおよびソフトウェアを無断で改造しないでください。この場合の品質および安全につきましては、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本マニュアルの内容について予告なく変更する場合があります。

※ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※ その他記載の社名および商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

ご注意書き

1. 本ソフトウェアおよび本資料に記載されるこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本ソフトウェアおよび本資料に記載される情報は、正確を期するため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本ソフトウェアおよび本資料に記載される情報の誤りに起因する損害が生じた場合においても、当社は一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 本ハードウェアおよび本ソフトウェアを改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製により生じた損害に関し、当社は一切その責任を負いません。
5. 本ハードウェアおよび本ソフトウェアは、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物質的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム・軍事機器等）、もしくは高品質水準が求められる機器・システム（自動車・電車・船舶等の輸送機器、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 本ハードウェアおよび本ソフトウェアをご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、本ハードウェアおよび本ソフトウェアの品質向上に努めておりますが、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。本ハードウェアおよび本ソフトウェアのご使用にあたっては、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証、および安全検証を行ってください。
8. 本資料に記載されている当社のハードウェア製品、ソフトウェア製品および技術を国内外の法令および規制により、製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、本ハードウェア、本ソフトウェアおよび技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途に使用しないでください。本ハードウェア、本ソフトウェアおよび技術を輸出する場合は「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続きを行ってください。
9. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担頂きますのでご了承ください。
10. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

目次

1.	概要.....	1
1.1	機能.....	1
2.	実行管理コマンド.....	2
2.1	カレントディレクトリの変更.....	3
2.2	タスク情報の表示.....	3
2.3	アプリケーションの実行.....	5
2.4	アプリケーションの終了.....	5
2.5	タスクの起動.....	6
2.6	タスクの起床.....	6
2.7	タスクの終了.....	7
2.8	タスクの終了・削除.....	7
2.9	強制待ち状態への移行.....	8
2.10	強制待ち状態からの再開.....	8
2.11	タスクのプライオリティの変更.....	9
3.	ユーティリティコマンド.....	10
3.1	ディレクトリの作成.....	11
3.2	ディレクトリの削除.....	11
3.3	ディレクトリの表示.....	12
3.4	ファイル、ディレクトリのコピー.....	13
3.5	ファイル名、ディレクトリ名の変更.....	14
3.6	ファイルの削除.....	14
3.7	テキストファイルの表示.....	15
3.8	ファイルチェック.....	15
3.9	ディスク残り量の表示.....	16
3.10	ディスクの初期化.....	16
3.11	ディスクの構造チェック.....	17
3.12	RAM ディスクドライブの作成.....	18
3.13	RAM ディスクドライブの削除.....	18
3.14	ドライブの表示.....	19
3.15	日付・時刻の表示.....	20
3.16	日付・時刻の設定.....	20
3.17	メモリブロックの確保.....	21
3.18	メモリブロックの解放.....	21
3.19	メモリブロック情報の表示.....	23
3.20	メモリプール情報の表示.....	23
3.21	xTerm2 接続.....	24
3.22	xTerm2 切断.....	24
3.23	ping.....	25
付録 A	変更履歴.....	26

図・表 目次

図 3-1	chkdsk で破損が検出されなかった場合の実行例.....	17
図 3-2	chkdsk で破損が検出された場合の実行例.....	17
図 3-3	日付・時刻の設定、表示 実行例	20
図 3-4	メモリブロック情報の表示とメモリブロック解放 実行例	22
図 3-5	ping コマンド成功例.....	25
図 3-6	ping コマンド失敗例.....	25
表 2-1	実行管理コマンド一覧	2
表 2-2	タスク情報	4
表 2-3	タスク状態 (STS)	4
表 2-4	待ち要因 (WAI)	4
表 3-1	ユーティリティコマンド一覧	10

1. 概要

1.1 機能

シェルはコマンドを解釈し、実行するプログラムです。シェルを使用して、アプリケーションの実行や終了、フラッシュメモリディスクのファイル操作や管理等を行うことができます。

V P - A x シリーズのツール DbgTermNT2 でシェルを実行できます。DbgTermNT2 上でコマンドを入力すると、シェルがコマンドを解釈、実行します。

2. 実行管理コマンド

実行管理コマンドの一覧を、表 2-1 に示します。

表2-1 実行管理コマンド一覧

項番	実行管理コマンド	
1	カレントディレクトリの変更	cd
2	タスク情報の表示	tsk
3	アプリケーションの実行	ex
4	アプリケーションの終了	kill
5	タスクの起動	sta
6	タスクの起床	wup
7	タスクの終了	ter
8	タスクの終了・削除	txd
9	強制待ち状態への移行	sus
10	強制待ち状態からの再開	rsm
11	タスクのプライオリティの変更	pri

2.1 カレントディレクトリの変更

□ 機能

現在のディレクトリを変更します。

□ 書式

<code>cd</code> [パス]	現在のディレクトリからの相対パスで指定したディレクトリへ移動します。
<code>cd</code> [ドライブ名:]¥[パス]	ドライブからの絶対パスで指定したディレクトリへ移動します。
<code>cd</code> [..]	現在のディレクトリの親ディレクトリへ移動します。
<code>cd</code> ¥	ルートディレクトリへ移動します。

□ オプション

なし

□ 詳細

ディレクトリの区切り文字は ¥ です。

2.2 タスク情報の表示

□ 機能

システム上にあるタスクの情報を表示します。本コマンドにより、タスク ID やアプリケーション名を調べることができます。

□ 書式

`tsk`

□ オプション

`[-a]` タスク拡張情報を表示します。

□ 詳細

表示されるタスクの情報を、表2-2 に示します。

表2-2 タスク情報

基本情報	NAME	タスク名
	ID	タスク I D
	PRI	プライオリティ
	STK	スタックサイズ
	STS	タスク状態 (表 2-3 参照)
拡張情報 [-a] オプション	PID	親タスクのタスク I D
	ATR	属性
	ADR	先頭アドレス
	WAI	待ち要因 (表 2-4 参照)

表2-3 タスク状態 (STS)

RUN	実行状態
RDY	実行可能状態
WAI	待ち状態
SUS	強制待ち状態
WAS	二重待ち状態
DMT	休止状態
STK	共有スタック開放待ち状態

表2-4 待ち要因 (WAI)

SLP	slp_tsk、tslp_tsk
DLY	dly_tsk
SEM	wai_sem、twai_sem
FLG	wai_flg、twai_flg
SDTQ	snd_dtq、tsnd_dtq
RDTQ	rcv_dtq、trcv_dtq
MBX	rcv_mbx、trcv_mbx
MTX	loc_mtx、tloc_mtx
SMBF	snd_mbf、tsnd_mbf
RMBF	rcv_mbf、trcv_mbf
MPF	get_mpf、tget_mpf
MPL	get_mpl、tget_mpl
TFL	vwai_tfl、vtwai_tfl

2.3 アプリケーションの実行

□ 機能

アプリケーションをダウンロードし、実行します。

□ 書式

ex [ファイル名] "ex" は省略可能です。

□ オプション

[#s][スタックサイズ(HEX)] スタックサイズは16進数で扱います。
指定しない場合は、デフォルト値の 0x10000 (64kB) が設定されます。

[#p][プライオリティ] プライオリティは10進数で扱います。
指定しない場合は、デフォルト値の 33 が設定されます。

□ 詳細

実行可能なファイルの形式は、ELF/DWARF形式のAbsoluteファイル(.abs)です。[ファイル名]の拡張子は省略可能です。また、ファイルはフラッシュメモリの fmd ドライブに書き込んである必要があります。

(例) test #s40000 fmd:¥test.abs のアプリケーションタスクにスタック 256 kBを割り当てて実行します。

2.4 アプリケーションの終了

□ 機能

アプリケーションを終了します。

□ 書式

kill [ファイル名]

□ オプション

なし

□ 詳細

アプリケーション実行時にシステムで確保したメモリ領域を開放し、アプリケーションタスクを未登録状態にします。[ファイル名]の拡張子は省略可能です。

2.5 タスクの起動

□ 機能

タスクを起動します。

□ 書式

`sta` [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスクを休止状態から実行可能状態にします。
- ・タスク番号は `tsk` コマンドで確認できます。

2.6 タスクの起床

□ 機能

タスクを起床します。

□ 書式

`wup` [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスクの待ち状態を解除します。
- ・タスク番号は `tsk` コマンドで確認できます。

2.7 タスクの終了

□ 機能

タスクを終了します。

□ 書式

ter [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスクを休止状態にします。
- ・タスク番号は tsk コマンドで確認できます。

2.8 タスクの終了・削除

□ 機能

タスクを終了し、その後削除します。

□ 書式

txd [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスクを未登録状態にします。
- ・本コマンドでは、アプリケーション実行時にシステムで確保したメモリ領域の開放は行いません。アプリケーションを再実行する場合は、kill コマンドによりメモリの開放を行う必要があります。
- ・タスク番号は tsk コマンドで確認できます。

2.9 強制待ち状態への移行

□ 機能

タスクを強制待ち状態にします。

□ 書式

`sus` [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスク番号は `tsk` コマンドで確認できます。

2.10 強制待ち状態からの再開

□ 機能

タスクを強制待ち状態から再開させます。

□ 書式

`rsm` [タスク番号]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスク番号は `tsk` コマンドで確認できます。

2.11 タスクのプライオリティの変更

□ 機能

タスクのプライオリティを変更します。

□ 書式

pri [タスク番号] [プライオリティ]

- ・プライオリティは10進数で扱います。
- ・プライオリティは、 $31 \leq [\text{プライオリティ}] \leq 35$ の範囲で設定して下さい。

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・タスク番号、プライオリティは `tsk` コマンドで確認できます。

3. ユーティリティコマンド

ユーティリティコマンドの一覧を、表 3-1 に示します。

表3-1 ユーティリティコマンド一覧

項番	ユーティリティコマンド	
1	ディレクトリの作成	mkdir
2	ディレクトリの削除	rmdir
3	ディレクトリの表示	ls
4	ファイル、ディレクトリのコピー	cp
5	ファイル名、ディレクトリ名の変更	mv
6	ファイルの削除	rm
7	テキストファイルの表示	cat
8	ファイルチェック	md5sum
9	ディスク残り量の表示	df
10	ディスクの初期化	fdisk
11	ディスクの構造チェック	fsck
12	RAM ディスクドライブの作成	dd
13	RAM ディスクドライブの削除	rm
14	ドライブの表示	lsblk
15	日時・時刻の表示	date
16	日時・時刻の設定	timedatectl
17	メモリブロックの確保	malloc
18	メモリブロックの開放	free
19	メモリブロック情報の表示	meminfo
20	メモリプール情報の表示	meminfo
21	xTerm2接続	xterm
22	xTerm2切断	exit
23	ping	ping

3.1 ディレクトリの作成

□ 機能

ディレクトリを作成します。

□ 書式

`mkdir` [ディレクトリ名] [ディレクトリ名]のディレクトリを作成します

`mkdir` [パス]¥[ディレクトリ名] [パス] が存在しない場合、[ディレクトリ名] までのディレクトリを作成します。

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・指定したディレクトリが既に存在する場合はエラーとなります。
- ・ディレクトリを複数指定することができます。

(コマンド例) `mkdir APL1 APL2 APL3`

「APL1」、「APL2」、「APL3」の3つのディレクトリを作成します。

3.2 ディレクトリの削除

□ 機能

ディレクトリを削除します。

□ 書式

`deldir` [ディレクトリ名]

□ オプション

`[-q]` 削除確認メッセージを表示しません。

□ 詳細

- ・ディレクトリを複数指定することができます。

3.3 ディレクトリの表示

□ 機能

ディレクトリ内の全てのサブディレクトリとファイルを一覧表示します。

□ 書式

dir	パラメータの指定がない場合は、カレントディレクトリ内の一覧を表示します。
-----	--------------------------------------

dir	[ドライブ名]	パラメータで指定された階層の一覧を表示します。
	[ファイル名]	
	[ディレクトリ名]	
	[パス]	

□ オプション

なし

□ 詳細

なし

3.4 ファイル、ディレクトリのコピー

□ 機能

ファイルおよびディレクトリのコピーを行います。

□ 書式

```
copy    [ファイル名 1] [ファイル名 2]  
copy    [ファイル名 1] [パス]¥[ファイル名 2]
```

[ファイル名 1] を [ファイル名 2] にコピーします。

- ・ [パス] が存在しない場合はエラーとなります。

```
copy    [ファイル名] [ディレクトリ名]  
copy    [ファイル名] [パス]¥[ディレクトリ名]
```

[ファイル名] を [ディレクトリ名] 内にコピーします。

- ・ [ディレクトリ名] が存在しない場合はファイル名とみなされます。
- ・ [パス] が存在しない場合はエラーとなります。

```
copy    [-d] [ディレクトリ名 1] [ディレクトリ名 2]  
copy    [-d] [ディレクトリ名 1] [パス]¥[ディレクトリ名 2]
```

[ディレクトリ名 1] を [ディレクトリ名 2] にコピーします。

- ・ [ディレクトリ名 2] が存在する場合、[ディレクトリ名 2] 内にコピーします。
- ・ [パス] が存在しない場合、[ディレクトリ 2] までのディレクトリを作成し、[ディレクトリ 2] にコピーします。

□ オプション

[-q] 上書き確認メッセージを表示しません。

[-d] ディレクトリのコピーを行います。

□ 詳細

ディレクトリをコピーする場合は、オプション [-d] を指定する必要があります。

3.5 ファイル名、ディレクトリ名の変更

□ 機能

ファイル名およびディレクトリ名を変更します。

□ 書式

rename	[ファイル名 1]	[ファイル名 2]	[ファイル名 1] を [ファイル名 2] に変更します。
rename	[ディレクトリ名 1]	[ディレクトリ名 2]	[ディレクトリ名 1] を [ディレクトリ名 2] に変更します。

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・[ファイル名 2]または[ディレクトリ名 2]が既に存在する場合はエラーとなります。
- ・[ファイル名 2]または[ディレクトリ名 2]にパスを指定することはできません。

3.6 ファイルの削除

□ 機能

ファイルを削除します。

□ 書式

del	[ファイル名]	[ファイル名] を削除します。
del	[ディレクトリ名]	[ディレクトリ名] 内のファイルを削除します。

□ オプション

[-q] 削除確認メッセージを表示しません。

□ 詳細

- ・ファイルを複数指定することができます。
- ・ディレクトリを削除することはできません。

3.7 テキストファイルの表示

□ 機能

テキストファイルの表示を行います。

□ 書式

list [ファイル名]

□ オプション

[-l] [ライン数] 一度に表示するライン数を設定します。
指定しない場合は25ラインに設定されます。

[-b] バイナリ表示を行います。

□ 詳細

- ・バイナリ表示をする場合は、オプション [-b] を指定して下さい。
- ・設定したライン数に達しますと、“input enter key>”と表示してキー入力待ちとなります。ここで、[Enter]キー を入力すると次の情報を表示します。また、[ESC]キー を入力すると表示を中断します。

3.8 ファイルチェック

□ 機能

ファイルが壊れていないか検査します。

□ 書式

chkfile [ファイル名]

□ オプション

なし

□ 詳細

ファイルを複数指定することができます。

3.9 ディスク残り量の表示

□ 機能

ディスクの残り量を調査して表示します。

□ 書式

free [ドライブ] [ドライブ] の指定がない場合は、カレントドライブについて調査します。

free [ドライブ名] 指定した [ドライブ名] の調査を行います。

□ オプション

[-a] 全ドライブについて調査を行います。

□ 詳細

ドライブを複数指定することができます。

3.10 ディスクの初期化

□ 機能

ディスクの初期化を行います。

□ 書式

format [ドライブ] [ドライブ] の指定がない場合は、カレントドライブについてフォーマットを行います。

format [ドライブ名] 指定した [ドライブ名] のフォーマットを行います。

□ オプション

[-a] 全ドライブについてフォーマットを行います。

□ 詳細

- ドライブを複数指定することができます。
- 初期化を行いますと、そのドライブ内のファイルおよびディレクトリはすべて消去されます。

3.11 ディスクの構造チェック

□ 機能

ディスクの構造を解析し、検出した破損箇所を回復します。

□ 書式

chkdsk [ドライブ] [ドライブ] の指定がない場合は、カレントドライブについて構造チェックを行います。

chkdsk [ドライブ名] 指定した [ドライブ名] の構造チェックを行います。

□ オプション

[-a] 全ドライブについてディスクの構造チェックを行います。

[-q] 解析結果と回復処理実行確認のメッセージを表示せずに回復処理を行います。

□ 詳細

- ドライブを複数指定することができます。
- 本コマンドを実行しますと、まず、ディスクの構造を解析し、破損箇所の数を表示します。次に回復処理実行確認のメッセージが表示されます。破損箇所が検出されなかった場合は回復処理を行う必要はありません。

```
fmd:¥>chkdsk
[fmd:] There was no error-sector.
error-sector recovered, OK ? (y/n) n
```

chkdsk を実行します。
破損箇所が検出されませんでした。
回復処理実行確認のメッセージで、
'n' を入力します。

図3-1 chkdsk で破損が検出されなかった場合の実行例

```
fmd:¥>chkdsk
[fmd:] There were 43 error-sector!
error-sector recovered, OK ? (y/n) y
[fmd:] 43 error-sector were recovered.
```

chkdsk を実行します。
破損箇所が 43 か所検出されました。
回復処理実行確認のメッセージで、
'y' を入力します。
回復処理により 43 か所回復しました。

図3-2 chkdsk で破損が検出された場合の実行例

3.12 RAM ディスクドライブの作成

□ 機能

RAMディスクドライブを作成します。

□ 書式

`credsk` [ドライブ名] [サイズ(HEX)]

- ・サイズは16進数で扱います。
- ・サイズは64KB以上(0x10000以上)を指定して下さい。

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・ドライブ名が既に存在する場合はエラーとなります。
- ・本コマンドで作成したRAMディスクドライブは、電源OFFやリセットにより消去されます。

(コマンド例) `credsk ram: 100000`
容量1MBのramドライブを作成します。

3.13 RAM ディスクドライブの削除

□ 機能

RAMディスクドライブを削除します。

□ 書式

`deldisk` [ドライブ名]

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・ドライブ名が存在しない場合はエラーとなります。また、`sys` ドライブ、`fmd` ドライブは削除できません。
- ・ドライブ名を複数指定することはできません。

3.14 ドライブの表示

□ 機能

全ドライブの情報を表示します。

□ 書式

drv

□ オプション

なし

□ 詳細

ドライブ名、種別（ROM／RAM）、属性（R／W）、サイズを表示します。

3.15 日付・時刻の表示

□ 機能

システムの現在時刻を表示します。

□ 書式

date

□ オプション

なし

□ 詳細

日時・時刻の設定は [setime] を使用します。

3.16 日付・時刻の設定

□ 機能

システムに現在時刻を設定します。

□ 書式

setime

□ オプション

なし

□ 詳細

- ・[年]、[月]、[日]、[時]、[分]、[秒]を“-”でつないで入力します。途中省略するとデフォルト値が入力されます。
- ・日時、時刻の表示は [date] を使用します。

```
fmd:¥>setime
Input New Time (Year-Mon-Day-Hour-Min-Sec) >2015-01-20-11-30
fmd:¥>date
[RTC System Time] 2015/01/20 11:30:05
```

図3-3 日付・時刻の設定、表示 実行例

3.17 メモリブロックの確保

機能

メモリブロックの確保を行います。

□ 書式

mloc	[アドレス(HEX)] [サイズ(HEX)]	
		・アドレス、サイズは16進数で扱います。
		・サイズは4の倍数を指定して下さい。

□ オプション

[-I] [メモリプール I D] 生成済みのメモリプール I Dを指定します。
通常、指定する必要はありません。

□ 詳細

既に確保されているメモリ領域と重なる場合はエラーとなります。

3.18 メモリブロックの解放

機能

メモリブロックの解放を行います。

□ 書式

munl	[アドレス (HEX)]	<ul style="list-style-type: none"> ・アドレスは16進数で扱います。 ・メモリブロックの先頭アドレスを指定します。
------	--------------	--

□ オプション

[-I] [メモリプール I D] 生成済みのメモリプール I Dを指定します。
通常、指定する必要はありません。

□ 詳細

メモリブロック単位で開放しますので、メモリブロックの先頭アドレス以外を指定した場合はエラーとなります。

```
fmd:¥>mchk
```

```
-----  
1 : MQB[8C5A11E8]
```

```
size : 200(512)
```

```
next : 8C5A13F8
```

```
prev : 8C800000
```

```
atr  : 0
```

```
tsk   : 56
```

```
-----  
...
```

```
-----  
10 : MQB[8C800000]
```

```
size : 100000(1048576)
```

```
next : 8C5A11E8
```

```
prev : 8C5A17C0
```

```
atr  : 0
```

```
tsk   : 54
```

```
fmd:¥>muni 8c800000
```

mchk でメモリブロック情報を表示します。

メモリブロックの先頭アドレスを指定して、メモリブロックを解放します。

図3-4 メモリブロック情報の表示とメモリブロック解放 実行例

3.19 メモリブロック情報の表示

□ 機能

メモリブロック情報を表示します。

□ 書式

mchk

□ オプション

[-I] [メモリプール I D] 生成済みのメモリプール I D を指定します。
通常、指定する必要はありません。

[-I] [ブロック数] 一度に表示するブロック数を設定します。
指定しない場合は 4 ブロックに設定されます。

□ 詳細

- 全ての確保済みメモリブロックのアドレスとサイズを表示します。
- オプションで設定したブロック数に達すると、"input enter key>" と表示してキー入力待ちとなります。ここで、[Enter] キーを入力すると次の情報を表示します。また、[ESC] キー を入力すると表示を中断します。

3.20 メモリプール情報の表示

□ 機能

メモリプール情報を表示します。

□ 書式

minf

□ オプション

[-I] [メモリプール I D] 生成済みのメモリプール I D を指定します。
通常、指定する必要はありません。

□ 詳細

メモリプールの先頭アドレス、サイズ、空き領域の合計サイズ、確保可能な最大メモリブロックサイズ、最終端のメモリブロックのアドレスを表示します。

3.21 xTerm2 接続

□ 機能

S D Kツール xTerm2 と接続します。

□ 書式

```
tconnect [チャンネル番号] [IPアドレス]
tconnect [チャンネル番号] [IPアドレス] [ポート番号]
```

- チャンネル番号は xTerm2 のチャンネル番号です。
- IPアドレスは xTerm2 を実行しているパソコンのIPアドレスです。
- ポート番号は xTerm2 のポート番号です。
- ポート番号を指定しない場合はデフォルト値の30022になります。

□ オプション

なし

□ 詳細

- 本コマンド実行前に xTerm2 が起動していないとエラーになります。
- xTerm2 については、「xTerm2操作説明書」を参照して下さい。

3.22 xTerm2 切断

□ 機能

S D Kツール xTerm2 との接続を切断します。

□ 書式

```
tclose [チャンネル番号]      • チャンネル番号は xTerm2 のチャンネル番号です。
```

□ オプション

なし

□ 詳細

- xTerm2 については、「xTerm2操作説明書」を参照して下さい。

3.23 ping

□ 機能

IPパケットを発行し、そのパケットが正しく届いて返答が行われるかを確認します。

□ 書式

ping [IPアドレス]

□ オプション

なし

□ 詳細

以下にpingコマンドの成功例と失敗例を示します。

```
fmd:¥>ping 192.168.0.30
Pinging 192.168.0.30 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.30: bytes=32 time<0ms
Reply from 192.168.0.30: bytes=32 time<0ms
Reply from 192.168.0.30: bytes=32 time<0ms
Reply from 192.168.0.30: bytes=32 time<0ms
```

図3-5 ping コマンド成功例

```
fmd:¥>ping 192.168.0.205
Pinging 192.168.0.205 with 32 bytes of data:
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
```

図3-6 ping コマンド失敗例

付録A 変更履歴

【第1版】
初版

【第2版】
社名を変更しました。

画像認識ユニット NVP-A x 2 3 0 SDK
SVP-A x 3 3 0 SDK
シェルコマンド リファレンス (第2版)

(C) マクセルシステムテック株式会社

開発元

マクセルシステムテック株式会社

設計部 〒992-0021 山形県米沢市花沢 3091-6

営業部 〒244-0801 神奈川県横浜市戸塚区信濃町 549-2 三宅ビル

技術サポート窓口 URL <http://www.systemtech.maxell.co.jp/>
mail : vp-support@maxell.co.jp